

昭 17												昭 16					昭 15	年	月	日	才一工兵隊司令部略歴
2	2	2	12	12	12	8	7	12	12	11	8	8	略	歴							
27	25	23	22	20	16	2	16	14	13	15	8	略			歴						
<p>佳木斯着。同地付近の警備。</p> <p>滿支国境通過。</p> <p>蚌埠出発。</p> <p>安徽省鳳陽県蚌埠着。爾後事変地勤務に従事。</p> <p>滿支国境通過。</p> <p>一部を佳木斯に残置し、中支派遣のため佳木斯出発。</p> <p>同地付近の警備。</p> <p>第五軍隷下の各独立工兵部隊を編入して佳木斯において編成完結。</p>												<p>佳木斯着。</p> <p>哈爾濱出発。</p> <p>閔作命甲第三九五号により三江省樺川県佳木斯に移駐。</p> <p>編成下令。</p> <p>兵江省哈爾濱において編成完結。</p>					<p>編成下令。</p>	城第一二二六部隊	通称号	滿第三五八部隊	
															摘要						

2312

昭 19											昭 18					
3	3	3	12	12	12	11	11	11	10	10	3	3	3	11	11	11
27	25	22	26	24	22	13	9	1	30	26	15	12	10	26	24	20
<p>中支派遣のため佳木斯出発。 満支国境山海関通過。 安徽省蚌埠着。同日より同地付近の警備。 蚌埠出発。</p> <p>駐屯地佳木斯着。同日より同地付近の警備。 中支派遣のため佳木斯出発。 満支国境山海関通過。 安徽省、蚌埠着。同地付近の警備。 同地出発。</p> <p>佳木斯着。同地付近の警備。 中支派遣のため佳木斯出発。 満支国境山海関通過。 安徽省蚌埠着。同地付近の警備。 蚌埠出発。</p> <p>満支国境山海関通過。 佳木斯着。同地付近の警備。</p>																

昭 20							自 至		自			昭 20		
9	9	9	8	8	8	5	11	9	8	8	5			
末	25	10	20	16	12	中	10	19	10	9	中			
<p>一部を佳木斯に残置し、主力は牡丹江省穆稜県穆稜に陣地構築に移動。 日「ソ」開戦と同時に穆稜より代馬溝に転進。 「ソ」軍の攻撃をうけ、磨刀石より掖河北方山地に後退。途中分散行動となり 牡丹江、横道河子において武装解除したものは、海林第一四三作業大隊に、八 月二十三日寧安付近において武装解除したものは、東京城第二六三、第二七三 作業大隊にそれぞれ編入。 綏芬河經由入「ソ」。 佳木斯残留隊 佳木斯にあつて周辺の警備。 戦闘することなく、浜江省哈爾浜方面に移動。 三江省方正県方正着。 方正付近の伊漢通において武装解除。 松花江を下航し、佳木斯に上陸。 同地において漆原作業大隊に編入。同日出発。 黒河經由水路入「ソ」。</p> <p>司令官 大佐 佐々木 庄助</p>														

昭											年	月	日	略	歴	摘	要
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭							
19											17			独立工兵才一八連隊略歴 通称号 城第一八九三部隊			
3	11	11	11	3	3	3	12	12	12	3	2						
17	19	7	3	18	15	14	7	5	1	30	24						
屯営地帰還のため蚌埠出發。 蚌埠着。 満支国境通過。 冬季演習参加のため佳木斯出發。 佳木斯着。同地付近の警備。 満支国境山海関通過。 任務終了のため蚌埠出發。 蚌埠着。同地付近の警備。 満支国境山海関通過。 冬季転地演習のため、中支那安徽省鳳陽県蚌埠に向かい出發。 同地付近の警備。 三江省佳木斯において編成完結。 軍令陸甲第一五号により編成下令。 北支軍独立混成第一第二第三第四第六旅団工兵隊の要員を基幹として編成。																	

昭					20				
至	自	至	自	自	至	自	至	自	自
9	8	8	8	8	6	4	4	11	11
1	23	16	14	12	初	24	23	13	12
<p>山海関通過。</p> <p>佳木斯着。同地付近の警備。</p> <p>佳木斯出発。</p> <p>密山県境通過、同日東安省密山県東安着。</p> <p>築城作業ならびに国境警備。</p> <p>作業終了。東安出発。</p> <p>佳木斯着。</p> <p>移駐のため佳木斯出発。</p> <p>東安省林口着。同地付近の警備。</p> <p>一部を林口に残置し、主力は牡丹江省穆稜県穆稜に陣地構築のため出発。第一二四師団歩兵部隊に協力、陣地の構築作業。</p> <p>林口残留隊は、初年兵の教育、掖河への移駐準備に従事。</p> <p>主力は穆稜陣地を撤退、小豆山に移動。「ソ」軍と交戦し戦死傷者をだした。</p> <p>小豆山より磨刀石に後退、牡丹江に向かう途中分散行動となる。</p> <p>各行動群は、寧安、東京城、南湖頭、掖河において武装解除し、次の作業大隊にそれぞれ編入した。</p>									

											昭											
											20		至		自							
											9	9	8	8	8	8	8	9	9	9	9	
											11	2	18	15	14	11	10	20	11	7	3	1
<p>連隊長</p> <p>初代 中佐 柳</p> <p>二代 中佐 太郎田</p> <p>三代 中佐 小川四郎</p>											<p>蘭崗第二七七作業大隊編入。九月五日出発。</p> <p>東京城第二七三作業大隊編入。九月五日出発。</p> <p>拉古第二六作業大隊編入。九月一日出発。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>林口残留隊。</p> <p>主力に合流すべく牡丹江に向かったが、途中「ソ」軍の攻撃を受け、合流できなかつた。</p> <p>掖河付近において陣地構築。</p> <p>「ソ」軍の攻撃をうけ撤退し、牡丹江に集結。</p> <p>横道河子に向かう。</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>拉古第二〇作業大隊に編入。</p> <p>同地出発。同日綏芬河經由入「ソ」。</p>											

昭 20				年	
8	8	8	8	7	6
18	17	16	9	6	5
電信才四六連隊略歴					
通称号 城第一三九四八部隊					
略 歴					
<p>軍令陸甲第三六号により編成下令。</p> <p>第一二六師団通信隊よりの転属者と電信第七連隊の内地転用による残置者を基幹とし、現地召集者を充用。東安省東安において編成完結。</p> <p>牡丹江に移駐。</p> <p>各中隊を第五軍隷下各部隊の通信業務を担当のため、つぎのとおり配置した。</p> <p>第一中隊 第一二六師団（掖 河）</p> <p>第二中隊 第一三五師団（東 安）</p> <p>第三中隊 第五軍司令部（牡丹江）</p> <p>第四中隊 第一二四師団（穆 稷）</p> <p>日「ソ」開戦とともに各中隊は勤務地より寧安県掖河に前進。掖河において本部と合流し牡丹江方面に後退。</p> <p>牡丹江に集結。寧安県横道河子に向かう。</p> <p>横道河子着。</p> <p>同地において武装解除。</p>					
摘 要					

	9	9	9	8
	21	15	10	21
<p>海林収容所に移動。</p> <p>海林第一三八作業大隊に編入。</p> <p>同地出発。</p> <p>綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>第四中隊の一部は、第一二四師団の通信担任のため同部隊と行動を共にし、八月十一日代馬溝より磨刀石を突破、寧安に向かい八月二十七日鹿道において武装解除。東京城第二八六作業大隊に編入後入「ソ」した。</p> <p>連隊長</p> <p>少佐 武井久男</p>				

至 自		至 自		昭 20		年 月 日	才九遊撃隊略歴	
8 8		8 8		7 7				6
18 17		14 10		9 30				10 20
<p>第五軍直轄「桜」部隊として東安省、宝清において訓練中のものを主体として軍隊区分による臨時遊撃隊を編成。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>臨時遊撃隊を復帰し、東安省斐徳において第九遊撃隊編成完結。</p> <p>日「ソ」開戦と同時に駐屯地および、東安付近の守備、爆破等に任ず。</p> <p>部隊主力は東安より林口方面の第一三五師団に合流すべく前進中、東安付近において兵器廠、自動車廠、貨物廠に各一ケ小隊を兵器類の爆破、焼却ならびに警備のため派遣し、各廠の位置に残置した。</p> <p>第六中隊は寧安県樺林において「ソ」軍戦車の攻撃をうけ隊長以下多数の戦死傷者をだした。この部隊は当初より東安省内に分散配置していたため谷分遣隊の集結は不能となり、各地において武装解除した。</p> <p>その主なるものは次のとおりである。</p> <p>牡丹江省寧安県横道河子において武装解除。</p>								
							略 歴	
							摘 要	

2320

				至 自				至 自							
				10	9	9	9	9	9	9	8	9	9	9	8
				25	18	15	2	13	11	7	25	11	3	8	30
				寧安県二道河子において武装解除。 海林第一四四作業大隊に編入。 同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。 隊長				綏芬河經由入「ソ」。 同地出発。 拉古第二六作業大隊に編入。 同地出発。 寧安県掖河において武装解除。				綏芬河經由入「ソ」。 同地出発。 八月三十一日より九月九日までの間に同地出発。 拉古第一一作業大隊に編入。			
少佐 真壁 実一															

昭 16											年 月 日	才 四 五 野 戦 道 路 隊 略 歴		
自 昭 17														
7	6	10	3	3	3	8	8	8	8	8			7	
21	14	31	16	15	14	31	30	16	14	10	7	16	略 歴	通称号 城第五二四五部隊
<p>臨時編成(甲)下令。 工兵第五七連隊補充隊よりの要員を基幹として盛岡において編成完結。 大阪港出帆。 釜山上陸。 鮮満国境(函們)通過。 東安省虎林県虎林着。道路構築作業に従事。 虎林出発。同日虎頭着。 虎頭付近の築城および道路構築作業。 虎頭出発。同日虎林着。 虎林―新立屯―保安屯間の特種道路構築作業。 移駐のため虎林出発。同日東安着。 東安出発。同日密山県新立屯着。</p>											略 歴			
											摘 要			

										自昭 19
										至昭 20
										3
										3
										4
										8
										8
										8
										8
										9
										12
										13
										15
										19
										29
										1
<p>新立屯―大荒崗―陽炎台―南崗―新立屯間、局地線特種道路構築作業。 牡丹江省七星に移駐。陣地構築作業。 日「ソ」開戦。 軍命令により掖河に移動。 第一三五師団長の指揮下に入り掖河北高地守備。 牡丹江に集結。 横道河子において武装解除。 主力は拉古第二作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p>										
<p>隊長 少佐 田 辺 定 一</p>										

自 昭										年 月 日	独立輜重兵才六四大隊略歴
至 昭											
2	2	11	8	8	8	8	8	7	7		
末										20	9
<p>鶏寧に集結。</p> <p>視、教育訓練などの業務の実施。</p> <p>れぞれ移動し、各地において警備、建築、作戦道路構築、伐採、輸送、苦力監視、教育訓練などの業務の実施。</p> <p>第五第六中隊は、鶏寧、興隆溝、関門溝、大洋山、城子河、上山陽付近等をそれぞれ移動し、各地において警備、建築、作戦道路構築、伐採、輸送、苦力監視、教育訓練などの業務の実施。</p> <p>第三第四中隊は、鶏寧、海城、平陽、恒山、城子河等。</p> <p>第一第二中隊は鶏寧、綏陽、海城、東海、平陽等。</p> <p>大隊本部は、鶏寧より牡丹江省綏陽、奉天省海城等。</p> <p>東安省、鶏寧着。</p> <p>大連出発。同日関東州界通過。</p> <p>大連上陸。</p> <p>門司出帆。</p> <p>熊本出発。</p> <p>四四〇名をもつて編成完結。</p> <p>熊本出発。</p> <p>門司出帆。</p> <p>大連上陸。</p> <p>大連出発。同日関東州界通過。</p> <p>東安省、鶏寧着。</p> <p>大隊本部は、鶏寧より牡丹江省綏陽、奉天省海城等。</p> <p>第一第二中隊は鶏寧、綏陽、海城、東海、平陽等。</p> <p>第三第四中隊は、鶏寧、海城、平陽、恒山、城子河等。</p> <p>第五第六中隊は、鶏寧、興隆溝、関門溝、大洋山、城子河、上山陽付近等をそれぞれ移動し、各地において警備、建築、作戦道路構築、伐採、輸送、苦力監視、教育訓練などの業務の実施。</p> <p>鶏寧に集結。</p>										略	歴
										通称号 城第七〇〇部隊	

2324

至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自
9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	6	4
13	11	9	25	24	18	16	15	14	13	12	9
<p>部隊全員東安省林口に移動。 移駐のため林口出発。樺林着。 爾後部隊主力は仙洞、五河林、代馬溝に派遣され弾薬、糧秣、燃料等の輸送に従事。 日「ソ」開戦とともに樺林に集結。部隊主力は、仙洞、五河林などに派遣され弾薬、糧秣等の輸送ならびに警備。 派遣者全員部隊に復帰。 軍命令により、牡丹江に移駐のため出発。「ソ」軍戦車の攻撃を受け、損害をだした。同夜牡丹江市着。 牡丹江市において、第五軍臨時自動車中隊に約二〇〇名を派遣。 横道河子に後退のため、拉古、海林にいたる途中「ソ」軍機の空襲をうけ、相当の損害をだした。 横道河子において武装解除。 拉古に移動。 拉古第一三第一三作業大隊に編入。 拉古出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>隊長 大尉 小林 五一</p>											

昭												昭	年	月	日	略	歴	摘要
20												16						
8	8	8	8	8	5	3	8	8	8	8	7	7						
19	16	15	9	初	22	7	20	16	14	11	20	7						
<p>日「ソ」開戦となり、東安付近に「ソ」軍侵入のため主力は、第一三五師団に合流すべく三江省勃利県勃利方面に前進。</p> <p>扶桑開拓団付近において「ソ」軍の攻撃を受けた。</p> <p>勃利着。同日同地出發。</p> <p>東安省林口県古城鎮を経て牡丹江省寧安県横道河子に向け出發。途中寧安県海</p>												<p>特臨編一六令付第一〇八号の一により編成下令。</p> <p>西部第五四部隊よりの差出人員を基幹として久留米において編成完結。</p> <p>門司港出帆。</p> <p>大連上陸。</p> <p>関東州界通過。</p> <p>駐屯地東安省虎林県虎林着。第五軍司令官の隷下に入り、同日より同地付近の警備。</p> <p>現役入隊者一〇〇余名。</p> <p>現地応召者約七〇名。</p> <p>主力は虎林にあつて、牡丹江省寧安県七星に作業隊を派遣し、それぞれ同地付近の警備。</p>						

独立輜重兵才七〇中隊略歴

通称号 城第六七五三部隊

昭 20																
	9	8	8	8	8	8	8	11	11	9	9	9				
	2	31	29	18	14	12	9	4	2	23	20	16				
中尉 藤見太郎	隊長	綏芬河經由入「ソ」。	同地出發。	拉古第二作業大隊に編入。	横道河子において武装解除。	牡丹江省寧安県拉古に到着。	牡丹江着。同地出發。	日「ソ」開戦とともに、列車により牡丹江に向かう。	七星派遣隊	満洲里經由入「ソ」。	同地出發。	蘭崗（八達溝）第一六作業大隊に編入。	寧安県東京城に集結。	寧安県沙蘭鎮において武装解除。	横道河子を突破し、敦化方面に向かう。	林付近において若干の分離者をだした。

		至 自					昭	
							20	
		10	10	9	9	8	8	10
		22	17	18	10	19	9	22
		<p> 綏芬河經由入「ソ」。 各分遣隊 各勤務地を出発し牡丹江省穆稷泉下城子付近において合流。 南下途中、掖河ならびに東京城付近において分離行動となり横道河子に向かう。 横道河子 東京城 において武装解除。 海林第一三九作業大隊に編入。 同地出發。 綏芬河經由入「ソ」。 中隊長 初代中尉 外山春男 二代少尉 石川元久 </p>						

昭 16		自		至		昭 20		昭 20		年	陸 上 勤 務 才 九 二 中 隊 略 歴	
7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	月		
16	1	17	21	24	28	初	9	11	31	日		
<p>特臨編一六令付第一〇二号により編成下令。 京都府福知山において歩兵第二〇連隊（中部第六三部隊）よりの差出し人員を基幹として編成 完結。 大阪港出帆。 大連港上陸。 関東州界通過。 東安省密山県東安着。同日より第一七野戦貨物廠に配属され、貨物廠内の警備。 軍命令により一部を虎林、斐徳、宝清、興凱等の第一七野戦貨物支廠および、 虎林の第一七野戦兵器廠にそれぞれ分遣配属され、警備に任じた。 日「ソ」開戦にともない、主力は斐徳、興凱の分遣隊を掌握指揮し東安を出発。 牡丹江方面に後退。 東海駅付近より後退する途中、満軍の攻撃をうけ交戦。平陽、勃利を経て海林 に移動。 海林川渡河時「ソ」軍の攻撃をうけ、多数の戦死、生死不明者を出し主力に追 及できず、分散行動に移行した。 分散行動群は、敦化付近にいたる途中主力に追及、合流した。</p>											略	歴
											摘 要	

昭 20				昭 20									
11	10	9	8	10	10	9	8	8		11	11	9	9
23	5	3	12	22	17	18	25	9		23	15	27	21
<p>吉林省敦化县敦化付近（沙河沿）において武装解除。 敦化第二六〇作業大隊に編入。 同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>虎林分遣隊（第一七野戦貨物廠虎林支廠） 第一七野戦兵器廠虎林支廠 虎林出発。東安、勃利を経て林口に向かう。 林口において武装解除。</p> <p>海林第一三九作業大隊編入。 同地出発。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>宝清分遣隊（第一七野戦貨物廠宝清支廠） 宝清出発。</p> <p>寧安県二道河子において武装解除。 海林第一五〇作業大隊に編入。 同地出発。綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>隊長 中尉 界 敏 秋</p>													

昭 昭		至 自										昭	年	月	日	略	歴	摘	要
20	19	4	9	12	12	12	10	10	9	8	8	8							
27	3	28	26	25	20	19	2	31	30	25	2	16							
<p>特臨編一六令付第一〇二号により編成下令。 歩兵第六九連隊よりの差出人員を基幹として富山において編成完結。 宇品港出帆。 大連上陸。 関東州界通過。 浜江省安達着。同日より同地付近の警備。 安達出発。同日齊々哈爾着。 関東軍野戦貨物廠齊々哈爾支廠災害防止作業に従事。 齊々哈爾出発。 東安省虎林着。同日より同地付近の警備。 爾後東安に移駐まで移動なし。 東安に移駐。同日より同地付近の警備。 第一七野戦貨物廠鶏寧支廠の警備のため鶏寧に移動。</p>																			

兵 站 勤 務 才 四 六 中 隊 略 歴

通称号 城第四六二二部隊

	10	10	8	8	8	8
	25	15	30	13	11	9
	<p>日「ソ」開戦。 牡丹江方面に向かい転進。 勃利付近において「ソ」軍の攻撃をうく。 林口着。 横道河子において武装解除。以後海林に移動。 海林第一四三作業大隊に編入。 綏芬河経由入「ソ」。</p>					
	<p>隊長 中尉 柴野要 四次</p>					

昭 20	昭 19	昭 17					昭 16	年	兵 站 勤 務 才 八 〇 中 隊 略 歴
8	10	8	10	8	8	8	8	月	
6	5	29	2	26	23	21	17	2	
<p>特臨編一六令付第一〇二号により編成下令。 愛媛県松山市において歩兵第一二二連隊（西部第六二部隊）の差し出し人員を 基幹として編成完結。 坂出港出帆。 大連上陸。 関東州界通過。 東安省林口県鶏寧着。第五軍司令官の指揮下である第八〇兵站地区隊長の隷下 に入り、同地付近の兵站勤務に従事。 第八〇兵站地区隊とともに第二〇軍司令官の隷下に入る。 軍令陸甲第五六号により第二〇軍の直轄となる。 関総作命甲第五〇三号により第二〇軍司令官の隷下を脱し、第五軍司令官の隷 下に入る。 いぜん鶏寧付近にあつて付近の兵站勤務に従事。 各一部を半截河、平陽鎮、四道嶺、愛河等に分遣し付近の警備。</p>									
								略	歴
								摘	要

至 自						
	10	10	9	8	8	8
	22	17	18	18	16	14
	<p>日「ソ」開戦とともに主力および各分遣隊は牡丹江に向かい行動。 海林、林口等において全員合流。 横道河子において武装解除。 海林第一三九作業大隊に編入。 同地出發。 綏芬河經由入「ソ」。</p>					
	<p>隊長 中尉 本田 愛 雅</p>					

昭										年	月	日	略	歴	摘要
昭 20					昭 19			昭 16							
8	8	7	6	4	1	1	1	8	7						
11	9	3	25		7	7	5	1	10						
<p>特臨編一六令付第一二〇号により編成下令。 豊橋陸軍病院および新京陸軍病院からの要員を基幹とし、吉林省新京において編成完結。 爾後同地において診療業務。 新京出發。虎林に移駐。 密山県境通過。 東安省虎林着。虎林陸軍病院において診療を実施。 虎林県大和（泰和）に兵站病院開設。同地付近の各部隊の診療業務に従事。 牡丹江省掖河に移動のため出發準備。 牡丹江省掖河に移動。牡丹江第二陸軍病院長の指揮下に入り、診療を援助。 寧安県仙洞に一部を派遣し、診療班を開設。 日「ソ」開戦。 主力は牡丹江第二陸軍病院長の指揮下に入り患者の後送任じ、仙洞診療班は撤収し牡丹江第二陸軍病院に合流。</p>															

才一九兵站衛生隊本部略歴

通称号 城第二六二三部隊

略歴

摘要

2338

昭													年	患者輸送才四七小隊略歴	
19													月		
5	6	6	2	2	10	10	9	8	8	8	8	7	7		日
15	3	1	11	9	29	26	10	23	22	18	16	16	7	昭	16
<p>牡丹江省穆稜泉八面通に移駐。</p> <p>東安省鶏寧着。</p> <p>勃利出發。</p> <p>三江省勃利着。</p> <p>移駐のため錦泉出發。</p> <p>錦州省錦泉着。同地においていぜん前任務を続行。</p> <p>移駐のため鶏寧出發。</p> <p>東安省鶏寧県平陽着。同地において付近部隊の患者の輸送業務。</p> <p>東安省鶏寧県鶏寧に移動。</p> <p>鮮満国境（図們）通過。</p> <p>釜山港上陸。</p> <p>宇品港出帆。</p> <p>騎兵第三連隊補充隊からの人員を基幹とし、名古屋において編成完結。</p> <p>特臨編一六令付第一二三号により編成下令。</p>													略	歴	
															摘要

								昭
								20
								6
								7
								8
								8
								9
								9
								9
								20
								牡丹江省寧安県掖河に移駐。
								関東第三七陸軍病院長（牡丹江第二陸軍病院）の指揮下に入る。
								日「ソ」開戦となり、戦闘することなく、横道河子に移動。
								牡丹江省寧安県横道河子において武装解除。
								牡丹江省寧安県拉古に収容。
								拉古第一八作業大隊に編入。
								同地出発。
								綏芬河経由入「ソ」。
								隊長
								中尉 真木 五六平

							昭 16	年 月 日	第一七野戦兵器廠略歴 通称号 城第二六三四部隊
							7		
							7	特臨編二六令付第一二八号一 号により編成下令 名古屋市(中部第八部隊)に おいて、基幹要員の集結を 完了 大阪港出帆 釜山港上陸 鮮満国境(安東)通過 東安省西東安着 同地において関東軍野戦兵 器廠の軍人(将校、下士官兵) および軍属を加えて 編成完結 編成完結後、次のとおり支 廠および出張所を開設し付 近部隊に対する兵器、弾 薬の補給等の業務に従事 本廠………西東安	要
							7		
							7		
							25		
							22		
							30		
							31		
							8	摘 要	
							3		

		昭 20	昭 19	昭 18
6	5	5	8	8
			20	22
			<p>虎林出張所を虎林支廠（長、中佐川島武正）と改称 虎頭出張所は、虎林出張所に併合された。</p> <p>移動修理班（第一、第二）を中支に派遣 次のとおりの出張所を新設</p> <p>河東出張所……………（長 中尉 弓場三郎） 綏陽出張所……………（長 中尉 内藤惣一） 綏西出張所……………（長 見士 南出 博）</p> <p>虎林支廠は、虎林出張所となる。</p>	<p>出張所……………虎 林 出張所……………虎 頭 出張所……………鶏 寧</p>
			<p>「と」号演習に基づき、本廠以下各支廠、各出張所は、移駐、改編、新設等に</p>	

昭
20

8

9

より次のとおりとなつた。

愛河本廠……………西東安より移駐

牡丹江支廠（長、少佐 石井十吉）……………新設

鷄寧 支廠（長、中佐 有井 正）……………原地駐とん

虎 林出張所（長、中尉 熊崎清一）……………原地駐とん

西東安出張所（長、中尉 今野興八）……………改 編

海 林出張所（長、見士 米村喜一郎）……………新 設

代馬溝出張所（長、中尉 地主乗次郎）……………新 設

仙 洞出張所（長、中尉 村田 清）……………新 設

河 東出張所（長、中尉 弓場三郎）……………原地駐とん

綏 陽出張所（長、中尉 内藤惣一）……………"

綏 西出張所（長、見士 南出 博）……………"

以上の配置において、それぞれ担任部隊の兵器、弾薬の補給業務を実施

日「ソ」開戦となり、本廠以下、各支廠、各出張所は、次のとおり行動した。

至自		至自		至自 附20	
9	9	9	8	8	8 8
8	7	2	25	21	20 18
					17 15
					15 14 9
<p>愛河において戦闘に参加</p> <p>本 廠 総務部(約一二〇名) 補給部(約一〇〇名) 修理部 (一六〇名) 移動修理班(約八〇名) 普備中隊(二六〇名) 勤務中隊(二五〇名)</p> <p>治山(横道河子南方五キロメートル)において兵器廠業務継続のため本廠長以下全員愛河を出発、横道河子方面に向かったが、途中数行動群に分離。</p> <p>この間に、本廠主力群に合流する支廠をらびに出張所員があり、以後主力と同行動</p> <p>本廠主力は、横道河子において武装解除</p> <p>横道河子を出発、牡丹江に向かう。</p> <p>拉古に到着</p> <p>一部は同地において第一〇作業大隊に編入</p> <p>同地出発、綏芬河經由入「ソ」</p> <p>主力は、同地の第八作業大隊に編入、同日同地出発、綏芬河經由入「ソ」</p> <p>主力以外の行動群は、主として牡丹江より南下し、吉林省敦化に至る。</p>					

		昭 20		昭 20		昭 20		至自	
8	8	8	8	8	8	8	9	9	8 8
17	12	10	9	18	15	9	30	23	25 20
横道河子に到着		子に向かう。		主力は、東安省林口着（当時分離群の一部が合流）、以後山中に入り、横道河子に向かう。		兵器、弾薬を爆破後、全員牡丹江に向かい後退、途中戦闘により、分離行動となる。		「ソ」軍機の空襲を受けた。	
		鶏寧支廠（支廠約二〇〇名、警備隊約一五〇名）		横道河子において武装解除、以後本廠主力と合流し、同行動		牡丹江出発、横道河子に向かう。途中分散行動となる。		戦備態勢完了し、兵器補給業務を続行	
		牡丹江支廠（支廠員二五〇名、警備隊五〇名）		同地出発、綏芬河經由入「ソ」		同地において第二四三作業大隊に編入		敦化において武装解除	

		昭 20			昭 21			昭 20			昭 20	
10	10	8	3	3	9	8	9	9	8	8		
13	12	20	14	13	中旬	12	11	5	22	18		
同地出発、満洲里經由入「ソ」		敦化第二三九大隊に編入	池沢曹長群は、敦化において武装解除		同地出発、綏芬河經由入「ソ」		哈爾濱において、海林編成の第一五三作業大隊に編入		難民収容所に入る。		小山中尉群は、浜江省五常付近において武装解除、以後哈爾濱に移動、同地の主力より分離した行動群は、さらに小山中尉群と池沢曹長群となつて行動続行	
						同地出発、綏芬河經由入「ソ」		同地において第一八作業大隊に編入		拉古に到着		同地において武装解除、以後拉古に向かう。

昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20
8	8	8	11	9	9	8	8	8	8
10	14	10	2	3	25	17	16	14	14
朝陽屯開拓団を全員出発	同日、小川少尉群と合流し、以後同行動	消防自動車に乗車し朝陽屯より出発 勃利に到着後、空襲があつたが損害はなかつた。	同地出発、綏芬河経由入「ソ」	蘭崗、川崎作業大隊（長、中尉川崎登之助）に編入	新安鎮（寧安県）において武装解除、以後蘭崗に移動	二道河子において木村中尉群と合流し以後同行動	古城鎮付近において「ソ」軍戦車と遭遇後、下車し徒歩にて二道河子に向かつた。	勃利を「トラック」により出発	勃利において川崎中尉行動群と合流し、以後同行動
	五、辻 准尉行動群（軍属約六〇名）		四、川崎中尉（勤務中隊等）行動群（約五〇名）						

昭 20			昭 21			
9	8	8	3	9	8	
1	18	12	14	1	20	
に移動	その他、主なる行動群も横道河子に向かい行動し、同地で武装解除、以後拉古	拉古において本廠に合流、以行同行動	横道河子において武装解除、以後拉古に移動	警備隊は、おおむね部隊行動をとり、横道河子に向かった。	軍需品等を焼却後、部隊を解散したため、以後は分離行動となった。	海林出張所（出張所約三〇名、警備隊約三〇名）
			哈爾濱出發、綏芬河經由「ソ」	海林において第一五三作業大隊に編入、哈爾濱に移動	横道河子の西南方「ロマノフカ」村において武装解除後、海林に移動	子を経由
					森林鉄道一八キロ地点より、夜行軍となり行軍隊形は乱れた。以後浜江省高嶺	道河子方面に向かい行動。
						林口付近に到着後、林口火災のため、変針し、三道河子に至り、以後山中を横

			昭 20	昭 21			昭 20
8	8	8	8	3	10	9	8
18	15	14	10	14	13	3	9
<p>牡丹江省三道河子、同二道河子を経由、途中、現地住民の襲撃を受けたが損害</p>			<p>（愛河の本廠を目的）に向かい行動</p> <p>一、今野中尉行動群（約一〇〇名）</p>		<p>海林第一五三作業大隊に編入、以後哈爾濱に移動</p>		<p>日「ソ」開戦後、本廠の命により、建物、資材を焼却後、牡丹江に向かい後退</p>
<p>安県横道河子方面に向かい行動</p>			<p>おおむね勤務区分のとおり、数行動群に分かれて西東安を出発し、牡丹江方面</p>		<p>哈爾濱出発、綏芬河經由入「ソ」</p> <p>出張所……………約一五〇名</p> <p>勤務中隊……………約七〇〇名</p> <p>警備中隊……………約五〇〇名</p>		<p>西東安を経て行動中、「ソ」軍の攻撃を受け山中に入る。</p>
<p>行軍により、東安省古城鎮に至る。</p>			<p>林口西南方の部落において現地住民の襲撃を受け、損害を出し山中に入り、寧</p>		<p>横道河子において武装解除、以後海林に移動</p>		

昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20
8	8	8	8	10	10	9	9	8	
12	22	15	10	中旬	13	7	5	25	
<p>なく行動続行、途中、上野少尉群と合流。 横道河子付近の山中に至つた。(当時、「ソ」軍の攻撃を受けたが損害がなかつた。</p> <p>桃山屯(浜江省?)において部隊を解散し、一部は分離行動となつた。 主力群は、浜江省重布洛尼において武装解除、以後海林に移動 海林において第一四八作業大隊に編入 同地出発、綏芬河經由入「ソ」</p> <p>二、上野少尉(警備中隊)行動群(約七〇名) 未明、西東安を出発 東安省古城鎮付近より山中に入り、横道河子に向かう。 横道河子付近において今野中尉群と合流し、以後同行動</p> <p>三、小川少尉(北倉庫)行動群(約五〇名) 「トラック」五輛に分乗し、西東安を出発したが、東海付近において故障車続出し、以後一輛となつて行動、城子屯付近より徒歩行軍となつた。</p>									

昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	昭 20	
8	8	8	8	8	8	9
11	9	12	10	14	12	初
<p>り、以後二ないし三の行動群となつた。</p> <p>穆稜県興隆屯付近において「ソ」軍戦車の攻撃を受け、部隊は、分離状態とな</p>	<p>行動群に別れて河東を出発</p> <p>一、富田准尉行動群</p>	<p>愛河の本廠より、第一二四師団長の指揮下に入るよう命令があり、おおむね三</p> <p>河東出張所（出張所約一三〇名） 警備隊約三〇名</p>	<p>愛河に到着、本廠に合流、以後同行動</p> <p>主力は、弾薬後送のため、愛河に向かい出発</p> <p>仙洞出張所（出張所 三〇名） 警備隊約二〇名</p>	<p>肉攻班の出動、所員の戦闘により少数の生死不明者を出した。</p> <p>愛河の本廠に合流、以後同行動</p>	<p>代馬溝出張所（出張所約七〇名） 警備隊約三〇名</p>	<p>拉古において本廠に合流、以後同行動</p>

横道河子方面に行動した群は、八月二十日ごろ同地で武装解除以後、拉古に移動、同地において第八作業大隊に編入し、綏芬河經由入「ソ」

東京城方面に行動した群は、八月下旬、寧安県東京城において武装解除後、吉林省敦化に移動、九月二十三日敦化の第二四三大隊に編入、九月三十日、同地出発、綏芬河經由入「ソ」

二、浅野伍長行動群

列車により行動中、綏陽県綏西付近において「ソ」軍戦車の攻撃を受け、列車より下車して応戦、戦場を脱出後、主力群は穆稜に向かい行動、八月十四日穆稜付近を経て南下、八月下旬、東京城において武装解除、九月三日同地の第二七三大隊に編入、九月五日同地出発、綏芬河經由入「ソ」

行動群の一部は、東京城↓汪清（九月十二日）↓間島（九月二十日）同地の第三五作業大隊に編入、珲春經由入「ソ」

三、弓場中尉行動群

河東を「トラック」により出発、愛河に向かったが、途中徒歩行軍となり、山

	昭 20	
	8	8
	14	9
<p>中を西南進し、八月二十九日寧安県馬廠において武装解除、以後蘭崗に移動、九月一日蘭崗において第二七七大隊に編入、九月五日、同地出発、綏芬河經由「ソ」</p> <p>綏陽出張所（出張所約八〇名 警備隊約三〇名）</p> <p>綏陽を出発、綏西付近において「ソ」軍の攻撃を受け、損害を出し、山中に入る。</p> <p>穆稜陣地を突破の際、四散の状態となり、以後少数人員の行動群となり、それぞれ南下、次のとおり、各地において武装を解除した。主なるもの次のとおり。</p> <p>一、八月二十日、牡丹江省横道河子において武装解除、以後拉古に移動、</p> <p>九月八日拉古第八作業大隊に編入、同日同地出発、綏芬河經由入「ソ」</p> <p>二、八月十七日牡丹江省綏陽県大城廠經由、八月二十二日吉林省敦化着、九月二十三日同地編成の第二四三大隊に編入、九月三十日同地出発、綏芬河經由入「ソ」</p>		

昭 昭											年	才二〇軍馬防疫廠略歴	
至 自													月
9	9	9	8	8	8	8	8	8	9	8			
30	14	10	19	17	16	9	1	22	15	3	16	日	略 歴
<p>特臨編一六令付第一二七号の二により編成下令。 関東軍軍馬防疫廠よりの転属者を基幹とし、内地よりの応召者をもつて吉林省 新京において編成完結。 東安省虎林に移駐。 虎林に支廠開設し、主力は東安に移駐。 防疫業務の関係上將校以下数名を東安に残置し、牡丹江省愛河に移駐。 日「ソ」開戦。愛河において戦闘。 横道河子に移動。 横道河子において武装解除。 拉古第二一作業大隊に編入。 同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p>											摘要		

2356

						昭 20
				8	8	8
			中	13	12	9
						虎林支廠
						開戦とともに東安残留隊と合流。徒歩にて勃利に向かう。
						勃利より列車にて林口方面に向かう。
						亜河付近にて下車。山中に入り途中若干の落伍者をだした。
						横道河子において武装解除。
						海林第一四〇作業大隊に編入。
						同地出発。綏芬河經由入「ソ」。
						廠長
						獣医大尉 鈴木良次

年月日	昭14	昭15	昭16
	8	7	8
	21	10	16
概要	<p>東安省虎頭陸軍病院において編成完結 (基幹要員は、満洲駐とん部隊より編入) 虎頭より虎林に移動 職員約三〇名を増加し、病院業務を実施 軍医、下士官、兵、看護婦(約六〇名)</p>		
要	<p>軍令陸甲第一四号により編成改正下令(関東軍軍備改変要領) 人員の増強 特別臨時編成改正下令 虎林において編成完結</p>		
摘要	<p>戦時態勢により人員の増強(約一二〇名) 駐とん地付近部隊の患者の収療に任じた。</p>		

虎林陸軍病院略歴

(関東軍第三二陸軍病院)

通称号 満第六三九部隊 城第二一〇八三部隊

2358

至自							昭 20	
8	8	8	8		8		7	7
21	20	17	16	15	14		9	28 20
<p>寧安県愛河（元工兵第九連隊の兵舎）に移駐 移駐完了、軽症患者を原隊に復帰させ、他は、虎頭陸軍病院に引継ぐ。特に重 症の患者は若干の職員とともに虎林に残留（長、安倍中尉） 日「ソ」開戦となり、虎林の残留組は、重症患者を牡丹江に後送し、主力に合 流すべく同夜出發したが、勃利付近において爆撃をうけて分散した。 主力は、大部の患者を哈爾濱陸軍病院に後送、以後同地方は戦場となつたので 後退した。</p> <p>朝、看護婦、女子軍属は牡丹江經由、哈爾濱に向かい出發（八月十八日哈爾濱 着） 主力は同夜、拉古まで後退 拉古（病馬廠跡）に到着、横道河子に後退 横道河子着 同地において武装解除 拉古に移動、同地において患者の治療に従事</p>								

		昭	昭	昭	昭	昭	年月日	
		20	20	16	17	18		
		8	6	8	7	7		
		19	9	1	16	10	夏	
		病院開設						概要
		<p>軍令陸甲付第一四号により編成下令 特臨編令付七一号により編成改正下令 東安省虎林県虎頭において編成改正完結 関東軍第六八病院と改称</p> <p>日「ソ」開戦時、阿部病院長以下全員（入院患者約五〇名を含む）虎頭第四国境守備隊猛虎山陣地に移動を完了し、同守備隊の隷下に入り、同陣地内において綑帯所を開設（当日、入院患者中戦闘に従事しうるものは、すべて各守備隊に帰属せしめた）</p> <p>以後、戦傷病者の収容、治療に従事し、終戦を知らずに戦闘を続行した。ほとんど全員が、同陣地において玉碎するに至つた。</p> <p>脱出帰還者は、一名であつた。</p>						
病院長		<p>医中佐 檜 山 春 二 医中佐 矢 野 甚 一 医少佐 松 本 正 義 医少佐 阿 部 鉄 男</p>						要

虎頭陸軍病院
 （関東軍第六八陸軍病院）
 略歴

通称号
 満第八七八部隊
 城第二一〇八四部隊